山梨ライトハウス

第100号

発行／社会福祉法人 山梨ライトハウス
〒400-0064　甲府市下飯田2-10-1
TEL/055-222-3502　FAX/055-233-0124
URL　http://yamanashi-lighthouse.or.jp

情報文化センター　電話／055-222-3502
貸出・用具専用／055-223-1113
青い鳥ホーム　電話／055-242-8244
青い鳥成人寮　電話／055-224-5060
青い鳥支援センター　電話／055-267-7480
ヘルパーステーション青い鳥／055-221-0880
居宅介護支援事業所青い鳥／055-242-9020
相談支援事業所ヴィーヴィ／055-221-1260
青い鳥老人ホーム　電話／0553-26-6631
青い鳥ケアホーム　電話／055-235-5566

社会福祉法人 山梨ライトハウス

山梨ライトハウスの理念は「視覚障害者の未来（あす）を照らす光の道標（みちしるべ）となること」です。

CONTENTS

巻頭言……1
白い杖愛護運動月間……2
生活体験文 最優秀賞受賞作品‥3
福祉祭……4～5
ライトハウスニュース‥‥6～8
鉄道弘済会表彰……9
事業報告・決算報告……10
広報の歴史……11
お知らせ……12

百号は未来への一里塚

山梨ライトハウス理事長　萩原　満治

宮崎県にある日南海岸の沖合二百メートルほどのところに、小さな無人島があります。幸いの島と書いて「こうじま」。美しい樹林に覆われた島には、現在約九十頭のニホンザルが生息しています。

今から七十年ほど前。一歳半の雌ザルが、エサとして与えられたサツマ芋を、海水で洗って食べることを思いつきました。このイモ洗い現象は、ゆるやかに群れの中に浸透し、六年後にはすべての若いサルに広がっていったそうです。しかし、年長ザルの多くは新しい習慣を拒否し続けました。

信じられない変化が起きたのは、その時でした。百匹目のサルがイモ洗いに加わった途端に、群れのすべてがイモを海辺まで運んで洗うようになった、そうです。

この話、ちょっと非科学的で、にわかには信じられません。そもそも百頭いるかどうかの集団で、「百匹目のサルっておかしくない？」と思った方もいるでしょう。

白状すると、じつは英国の生物学者による〝作り話〟だったのです。幸島では、京都大学の野生動物研究センターが以前から観察・研究を続けてきました。仲間や子孫に受け継がれているこのイモ洗い行動は、「文化を持つサル」として、世界的にも有名です。かの生物学者は、その研究者から聞いた話として〝百匹目のサル〟の話を発表したのです。しかも、この現象は、宮崎のお隣にある大分県高崎山のサルの群れにも飛び火したことになっています。

幸島の対岸には、『百匹目の猿現象発祥の地』の石碑まであります。妻が宮崎生まれで、幸島へも行ったことがある私にとっては、この作り話を笑い話で済ませたくないところがあります。

「一つの行動や意識が、あるレベルを超えると、広がるスピードが加速度的に速くなる」という考え方に、どこか魅かれるのです。

「視覚障がい者の未来を照らす道しるべ」を目指して発行してきた広報『山梨ライトハウス』が、百号を迎えました。私たちがコツコツ積み重ねてきた努力も、必ず報われるに違いない。百匹目のサルの話に、そんな希望をもらうからです。

今から七十年前、甲府駅北口に薄いクリーム色の図書館が誕生しました。県内に初めてできた点字図書館です。目が見えないことによって大きく制限される情報。「私たちにも読める本が欲しい」との声に、県民からたくさんの募金が集まりました。しかし、お金だけあっても点字図書館はできません。点字の蔵書が千冊を超えないと社会福祉法人の許可がおりません。点訳講習を受けて点字本を完成させた人、点字図書四百冊を買って一括貸し出してくれた県立図書館。温かい善意が次々に集まって千冊を超えた時、初めて情報の殿堂へと生まれ変わったのです。

広報『山梨ライトハウス』百号は、さらに大きな目標への一里塚です。ともに手を携え取り合い、次の大きな山を目指しましょう。

広報「山梨ライトハウス」の創刊号。
「あなたが光になって！」と呼び掛けている

第70回白い杖愛護運動月間　令和6年11月1日～30日

白い杖・盲導犬キャンペーン
白い杖福祉の集い

第70回白い杖愛護運動（山梨県・山梨県教育委員会・山梨ライトハウス共催）が11月に行われました。

１日には、昨年まで新型コロナウイルス感染症予防のため中止していた「白い杖・盲導犬キャンペーン」を甲府駅南口で行いました。啓発パンフレットなどを配布し、目の不自由な方々への理解と協力を呼びかけました。

セレモニーの様子

多くの方に呼びかけができました

3日には「白い杖福祉の集い」を山梨県立盲学校体育館で開催しました。式典では、点訳・音訳奉仕者知事表彰、白い杖愛護作文・生活体験文受賞者の表彰が行われました。

知事表彰受賞者

知事表彰受賞者代表あいさつ

生活体験文（一般の部）受賞者

愛護作文（小学校の部）
受賞者

愛護作文（中学校の部）
受賞者

愛護作文（高等学校の部）
受賞者

生活体験文（児童・生徒の部）
受賞者

目の不自由な人たちとの交流や共生をつづる「白い杖愛護作文」に、小中高等学校18校から129編、目の不自由な人たちが日常生活のことなどをつづる「生活体験文」に17編の応募がありました。

生活体験文　最優秀賞受賞作品

諦める必要なんてない

【児童生徒の部】山梨県立盲学校　高等部本科普通科三年　山口（やまぐち）　穂乃華（ほのか）

私は絵を描くことが好きだ。これまでに水彩、アクリル、色鉛筆など様々な画材で絵を描いてきた。高校生になり、油絵を描き始めた。二年目に入るころには油絵の描き方に慣れてきたのでUTY教育美術展に向けて作品を作ることにした。自分で応募を決めたのは初めてのことだった。

今回の作品は紫陽花を描いた。正方形のキャンバスに紫陽花の一部をアップで切り取った構図に左上から右下に向かって青から紫へとグラデーションをかけた作品だ。この作品の制作には、美術の授業や放課後の時間をできる限りつぎ込んだ。下絵はクロッキー帳に描いたものを美術の先生にキャンバスの大きさに合わせて拡大してもらい、カーボン紙を使って転写する。次にベースの色を塗る。ベースが乾いたら花びらの重なりをわかりやすくするためにふちを白でなぞる。三日ほどして乾いてきたら色塗りの本番だ。花の中心からふちに向かって明るくなるように濃い色と、それを限りなく白に近くなるように調整した色を作り、花びら一枚一枚を丁寧に塗っていく。色を乗せては違う筆でぼかしを繰り返し、一つの花と全体のグラデーションのバランスを見ながら描いていく。この工程に一番時間をかけた。一枚の花びらに十分ほどかけて細かく調整し塗り重ねた。最後にカットした板材をキャンバスに打ち付けて額を作り完成した。紫陽花を鮮やかに、そして生き生きと描くことができたことに達成感を感じた。この作品には、雨に打たれても力強く堂々と咲き誇る紫陽花の生命力の強さを表現したことと、自分も自信をもって前を向けるようになりたいという思いを込めたことを合わせて「憧れ～たとえ雨に打たれても～」と題をつけて提出した。

そこから数日が経った放課後、寄宿舎の自分の部屋で過ごしているとドアを誰かがノックした。ドアを開けるとそこには美術の先生が居て開口一番に「おめでとう！」と言った。状況を理解できずにいると先生は「美術展に出した絵が賞を取ったよ！」と嬉しそうに教えてくれた。信じられない。山梨県立美術館長賞、応募作品の中から一つしか選ばれない賞に選んでもらえた。周りの人とは見え方が違うことで、技術やクオリティーなどもだが、そもそも審査の同じ土俵に立つことも難しいかもしれないと思っていた。だからこの作品も入賞のことは考えず、楽しんで描くことに重点を置いた。今までも周りの人に追いつくことはできない、と色々なことを諦めてきた。しかし、今回のことで同じように評価してもらえて、好きなことを認めてもらえたようでとても嬉しかった。諦めなくていいこともあることを知った。挑戦することを決めて取り組んでみてよかったと思った。これからも諦めずに物事に取り組んでいきたい。

私の光

【一般の部】甲斐市　眞田（さなだ）　ひろみ

私は八年前、職場の健康診断で眼の異常を指摘され、その後受診した眼科医から進行性の網膜症と告知された。当時は全く自覚症状がなく、まさに青天の霹靂だった。将来への不安から非常に落ち込んだが、日々の忙しさで深刻に考えることも次第に薄れていった。

しかし、病は徐々に進行し、今から一年半前、長年続けた仕事や自動車通勤にも限界を感じるようになった。そして、家族と相談した結果、仕事を辞め運転免許証も返納した。

その後、住み慣れた家の中では、気をつけていれば今まで通りの生活を続けていけるものと、淡い期待をしていたのだが、壁やドアにあたったり、床の物に躓いたり、階段から転落して怪我を負うなど、危険を感じることが増えていった。

私は、ついに白杖を持つことを決心した。同時に点字を含めた自立訓練を受けることで、新しい生活を模索していくことにした。

そして現在、自立訓練を始めて半年が経過した。この間に、様々な専門職の方と繋がることができた。生活相談員さんは、定期的に私と家族の様子を聞き取り、どのようなサービスが利用できるか等の情報を提供していただき、家族にとっても心強い存在である。

歩行訓練士さんには、日常生活で実際に困ることを相談している。的確なアドバイスにより、視覚障害者向けの情報ツールや用具などを利用することで不便さを感じることが減った。点字訓練では、初めて触れる六つの凸点の識別に苦労し、挫けそうになる私を豊富な知識と経験に基づいた指導により、次の段階へ進ませてくれている。おかげで、半年間で児童書をゆっくりだが読めるようになった。

音声で聞く読書と比べ、点字で読む読書は、目で文字を追う読書と同じワクワク感と満足感があることに驚いた。元来読書好きなので、読書の幅が広がったことに感激している。

また、点字学習の達成感は、私の思考にも良い影響を与えている。できないことは増えていくが、まずは、できるように工夫してみよう、というプラス思考が生まれ、好きだが諦めていたパンや菓子作りをもう一度始めるきっかけとなった。

これから始まる白杖歩行の訓練では、階段の昇降がある。転落した経験から恐怖と不安があるが、前向きに取り組み、また一歩先に進む自分に期待もしている。

私は、時には現実に落ち込んだり、時には意欲的になったりを繰り返しながら今日まで来た。この気持ちの波は今後も続くのだと思う。だが、常に寄り添ってくれている家族がいる。そして、新しい生活を模索することで、多くの方々との出逢いがあり、その力を借りて前に進めている。これは、今後さらに視えない時がやってくるだろう私にとって、とても強い希望の光となっている。

山梨ライトハウス 福祉祭

日時：令和6年11月3日(日) 11時15分～14時 青い鳥成人寮前庭

♥イベント♥『とても盛り上がりました』

ゲームコーナー『子供たちも大喜び』

陶芸品・木工品販売

5年ぶりに開催しました！

大盛況のうちに終了することができました

屋台コーナー『大行列すぐに完売』

青い鳥ホーム無料マッサージコーナー『大好評』

★白杖体験は子供から大人までたくさんの方が体験してくださいました★

ライトハウスニュース
NEWS NEWS NEWS

●情報文化センター●

夏休み学習会「目が見えないってどんなこと?」

七月二十七日、小学生とその保護者を対象に視覚障害や盲導犬についての学習会を開催しました。講師に盲導犬ユーザーであり、山梨県立盲学校教諭の酒井弘充先生を招き、盲導犬との生活や日常生活についてのお話、デモンストレーションが行われました。参加者たちは「見えない・見えにくいとはどういうことなのか」「町で見かけた際はどうすればいいのか」などを学び、みな熱心に耳を傾けていました。また、会場には、視覚に障害を持つ方が利用する点字絵本や日常生活用具などを展示しました。普段使っている用具にどのような工夫がされているのかを話し合う姿が見られました。

この体験会が、少しでも視覚障害や盲導犬についての理解を深め、温かい声かけができるきっかけになってほしいです。

クイズに挑戦！

点字絵本を触る参加者

デモンストレーションの様子

●青い鳥老人ホーム●

食べて歌って夏秋の行事

「やっと夏が終わったと思ったら、秋はこんなに暖かくて、冬はどうなっちゃうのかねぇ」と心配していた利用者でしたが、十二月からはきっちり寒くなり「ちゃんと冬は来るんだね。余計な心配して損したよ」と笑い合っています。

納涼会ではスイカ割りとわたがし。のど自慢大会では日頃の練習の成果を披露して、秋は恒例となった訪問ショッピング。

新しい一年でも、たくさんの笑顔が見られますように。

わたがし最高

全力で歌います

緊張の笑顔

優勝！！

割れなかった～

これも良さそう

決めました

●青い鳥支援センター●

感染症対策研修

令和六年十一月、感染症の流行が心配な季節となったため、青い鳥支援センターでは感染症に対する実技研修を行いました。

感染対策の基礎知識、必要物品、防護服の着脱方法等について確認後、ノロウィルスを想定した嘔吐物の処理について、実技を交えて練習しました。

研修後、職員より「防護服の着用や嘔吐物処理を実施したところ、手順を間違ったり戸惑ったりしてしまった。今回再確認できて良かった。」「有事にスムーズに対応するために物品や保管場所については全職員が周知しておくべきだと感じた。」などの感想が聞かれました。

介護現場において、私たち職員は感染予防に対する高い意識を持ち続けなければなりません。これからも研鑽を重ね、知識や手技をしっかり身につけ、実践していきます。

新聞紙を使って処理

ティッシュを嘔吐物と見立てて消毒

防護服着脱手順の確認

必要物品の確認

基礎知識の勉強中

●青い鳥成人寮●

男女合同クリスマス会

十二月十八日、久しぶりに男女合同クリスマス会を開催しました。午前の部では「紅白歌合戦」を行い昼食は焼きたてのピザを食べました。午後の部はリズムゲーム、サンタさんからプレゼントを頂き、おやつにはケーキを食べてみなさん大満足な一日でした。

イエ～イ！似合ってる～？

熱唱しました

ピザいかがですか～

焼きたてピザ最高

みんなガンバレ～

リズムに合わせて

サンタさんプレゼントありがとう

上手だよ～

●青い鳥ケアホーム●

餅つきを楽しみました

年々餅つきをする光景も見られなくなりましたが、今年度もケアホームでは皆さんで力を合わせて餅つきを楽しみました。晴天にも恵まれ青空のもと、皆さんで声を掛け合いぺったんこ。あんころ餅、豆餅、鏡餅、のし餅作りです。なぜか〝のし棒〟が見当たらず、のし餅は皆さんの手でペタペタと餅を叩き伸ばしてお正月のお雑煮の餅にしました。

昼食には、出来たてのあんころ餅やきなこ餅、豚汁、デザートを添えて年忘れ会の御馳走を食べながら、一年を振り返り思い出話で盛り上がりました。二〇二五年も皆さん健康で仲良く生活できるように…と話も膨らみました。ケアホームの皆さんはよく食べて、たくさん笑って元気いっぱいです。

具沢山の豆餅作り

みんなで落花生の殻むき

白い杖生活体験文受賞

青い鳥ケアホームに入居され二年になるTさん。白い杖愛護作文の生活体験文に初めて応募し、優秀賞をもらいました。Tさんは小学生時代、網膜色素変性症の病気を発症し徐々に視野を失いました。高校を卒業後、就職したこともありましたが退職してその後は長く家で生活していました。家族の勧めもありケアホームの短期入所を利用後、入居となりました。

作文には、初めての共同生活のことや、視覚障害者が活用できる福祉サービス・日常生活用具・補装具を利用しての五十才での新しい生活のスタートのことを書き表彰されました。今後のTさんの自立への道を見守っていきたいと思います。

表彰式の会場にて

●青い鳥ホーム●

交流会

甲府市貢川福祉センターにて、年末の恒例となった「青い鳥ホーム・青い鳥ケアホーム交流会」を開催しました。３Ｂ体操で身体を動かし、会食とカラオケを楽しみながら、二〇二四年の思い出話で盛り上がりました。二〇二五年も、皆さんにとって良い年となりますように…。

紅葉を見ながら３Ｂ体操

会食とカラオケ

2025年も笑顔で！

障害者文化展初出品

山梨県障害者文化展に、青い鳥ホームと青い鳥ケアホーム合同で、初めて作品を応募しました。個人で編み物を出品された方が二人。この冬に、早速ご自分で着ています。

また、団体として取り組んだ「オニオン＆ローズ」は、不要になった点字紙を玉ねぎ染めで色付けし、バラの形に切り取って壁画にしました。緑の葉の部分は、利用者が点字で「ありがとう」と打って気持ちを込めました。青い鳥ホームに飾り、ご来店いただいたお客様に見ていただく予定です。

展示された作品

第54回鉄道弘済会・日本盲人福祉委員会

朗読録音奉仕者（関東甲信越地区）表彰を受賞

卒寿に戴いた大きな賞

山梨青い鳥奉仕団音訳部　桂田　晶子

賞状を手に笑顔の桂田さん

録音の様子

一九八四年春、私は五十歳でした。NHKラジオの県庁だよりで「朗読録音奉仕者養成講習会の受講希望者を受け付ける」旨の放送をしていました。申し込み後、ライトハウスの理事長と講習会の講師との面接があり、それから毎週一回、半日の講習が数か月間あり修了証書をいただきました。これがライトハウスとのご縁の始まりです。一九八五年に青い鳥奉仕団に入団し、朗読録音奉仕者としての活動を始めることができました。それから四十年余り、ライトハウスのスタッフの皆さん、ご指導くださる先生方、奉仕団のお友達、録音図書の利用者と大勢の方々に支えられてここまでやってきました。そんな私がこの度、第五十四回朗読録音奉仕者として関東甲信越地区表彰を戴くこととなり、令和六年九月五日東京池袋のホテルメトロポリタンにて開催された朗読録音奉仕者感謝の集いにおいて表彰状その他が授与されました。実は私はこの夏の酷暑に体調を崩し出席がかないませんでした。後日、ライトハウス経由にて表彰状その他を頂戴いたしました。この受賞を励みとして、音訳図書の作成ができるのは、あと何年あるかしらと思いを巡らす卒寿の私です。とにかくできるところまで頑張ろうと思っています。よろしくお願いいたします。

川柳

浅川 和多留　選

●ライトハウス川柳会

題　詠（送る）

卒業生送る言葉に感涙し　岡部　恵子

塩味の効いたエールを送る親　萩原　満治

クラス会次回も元気にまた会おう　桑原　梅次

子や孫を送り出しての独りの茶　本間　りょう

親送り心に大きな穴が空く　相沢　幸雄

傍仮名の答辞万感込み上げる　堀内　孝春

枯露柿に郷のぬくもり子へ送る　埜村　和美

親友送りいつまた会える年の暮れ　小松　瑛

雑　詠

パパママの背を見ながら子は育つ　岡部　恵子

老いの坂孫が手を引く背中押す　萩原　満治

散歩道赤く咲く花サザンカよ　桑原　梅次

千羽鶴待つことできず友は逝き　本間　りょう

初恋の人に未来の夢語り　相沢　幸雄

災害の爪痕なおも深くなり　堀内　孝春

大根と柚子味噌郷の定期便　埜村　和美

●青い鳥老人ホーム川柳クラブ

雑　詠

お出掛けの約束交わし弾む胸　影山　笑美子

校庭で姿消えてくかくれんぼ　松木　鏡

消えていく田舎訛りを思い出す　山本　サカエ

買い物に迷い結局金減らぬ　佐野　英夫

嘘でいい優しい言葉欲しかった　齊藤　はる子

消えていく自分の気持ち追いかける　本多　民代

夕焼けの瞼に浮かぶ幼き日　市瀬　英子

令和５年度　事業報告・決算報告承認される

資金収支計算書（合算）

（自）令和5年4月1日
（至）令和6年3月31日

（単位：円）

勘定科目			予算 (A)	決算 (B)	差異 (A) − (B)
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	81,276,000	81,169,335	106,665
		老人福祉事業収入	117,424,000	117,725,507	△ 301,507
		障害福祉サービス等事業収入	464,749,000	470,796,488	△ 6,047,488
		身体障害福祉事業収入	49,009,000	49,430,828	△ 421,828
		その他の収入	564,000	564,699	△ 699
		その他の補助金収入	400,000	0	400,000
		経常経費寄附金収入	1,060,000	1,060,000	0
		受取利息配当金収入	6,000	5,927	73
		その他の収入	2,673,000	2,880,644	△ 207,644
		事業活動収入計 (1)	717,161,000	723,633,428	△ 6,472,428
	支出	人件費支出	523,706,000	518,546,202	5,159,798
		事業費支出	102,952,000	94,283,064	8,668,936
		事務費支出	64,093,000	59,704,925	4,388,075
		支払利息支出	450,000	443,532	6,468
		その他の支出	1,622,000	1,610,174	11,826
		事業活動支出計 (2)	692,823,000	674,587,897	18,235,103
	事業活動資金収支差額 (3)=(1) − (2)		24,338,000	49,045,531	△ 24,707,531
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	3,025,000	3,025,000	0
		その他の施設整備等による収入	0	25,248	△ 25,248
		施設整備等収入計 (4)	3,025,000	3,050,248	△ 25,248
	支出	設備資金借入金元金償還支出	22,200,000	22,200,000	0
		固定資産取得支出	8,372,000	8,276,104	95,896
		ファイナンス・リース債務の返済支出	297,000	288,200	8,800
		その他の施設整備等による支出	0	642,376	△ 642,376
		施設整備等支出計 (5)	30,869,000	31,406,680	△ 537,680
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)−(5)		△ 27,844,000	△ 28,356,432	512,432
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	10,001,000	10,000,230	770
		その他の活動収入計 (7)	10,001,000	10,000,230	770
	支出	積立資産支出	0	240,000	△ 240,000
		その他の活動支出計 (8)	0	240,000	△ 240,000
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)−(8)		10,001,000	9,760,230	240,770
予備費支出(10)			0	—	0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)−(10)			6,495,000	30,449,329	△ 23,954,329
前期末支払資金残高 (12)			520,613,507	520,613,507	0
当期末支払資金残高 (11)+(12)			527,108,507	551,062,836	△ 23,954,329

事業活動計算書（合算）

（自）令和5年4月1日
（至）令和6年3月31日

（単位：円）

勘定科目			当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A) − (B)
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	81,169,335	68,871,863	12,297,472
		老人福祉事業収益	117,485,507	124,650,450	△ 7,164,943
		障害福祉サービス等事業収益	470,796,488	481,845,175	△ 11,048,687
		身体障害福祉事業収益	49,430,828	51,778,742	△ 2,347,914
		経常経費寄附金収益	1,060,000	0	1,060,000
		サービス活動収益計 (1)	719,942,158	727,146,230	△ 7,204,072
	費用	人件費	527,028,972	484,374,411	42,654,561
		事業費	94,283,064	104,632,360	△ 10,349,296
		事務費	59,704,925	52,777,079	6,927,846
		減価償却費	39,845,943	39,403,161	442,782
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 4,060,960	△ 3,515,220	△ 545,740
		サービス活動費用計 (2)	716,801,944	677,671,791	39,130,153
	サービス活動増減差額 (3)=(1) − (2)		3,140,214	49,474,439	△ 46,334,225
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	5,927	5,955	△ 28
		その他のサービス活動外収益	2,880,644	3,084,665	△ 204,021
		サービス活動外収益計 (4)	2,886,571	3,090,620	△ 204,049
	費用	支払利息	443,532	521,232	△ 77,700
		その他のサービス活動外費用	1,610,174	1,534,467	75,707
		サービス活動外費用計 (5)	2,053,706	2,055,699	△ 1,993
	サービス活動外増減差額 (6)=(4) − (5)		832,865	1,034,921	△ 202,056
経常増減差額 (7)=(3)+(6)			3,973,079	50,509,360	△ 46,536,281
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	3,025,000	726,000	2,299,000
		固定資産売却益	0	7,273,419	△ 7,273,419
		特別収益計 (8)	3,025,000	7,999,419	△ 4,974,419
	費用	固定資産売却損・処分損	13	3,787,081	△ 3,787,068
		国庫補助金等特別積立金積立額	3,025,000	726,000	2,299,000
		特別費用計 (9)	3,025,013	4,513,081	△ 1,488,068
	特別増減差額 (10)=(8) − (9)		△ 13	3,486,338	△ 3,486,351
当期活動増減差額 (11)=(7)+(10)			3,973,066	53,995,698	△ 50,022,632
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額 (12)		966,415,146	909,419,448	56,995,698
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)		970,388,212	963,415,146	6,973,066
	基本金取崩額 (14)		0	0	0
	その他の積立金取崩額 (15)		10,000,000	3,000,000	7,000,000
	その他の積立金積立額 (16)		0	0	0
	次期繰越活動増減差額 (17)=(13)+(14)+(15) − (16)		980,388,212	966,415,146	13,973,066

貸借対照表（合算）

令和6年3月31日現在

（単位：円）

資産の部	当年度末	前年度末	増減
流動資産	577,380,961	543,940,265	33,440,696
現金	278,009	331,327	△ 53,318
普通預金	483,159,461	450,355,963	32,803,498
当座預金	0	372,074	△ 372,074
定期預金	2,000,000	2,000,000	0
事業未収金	85,146,841	88,057,158	△ 2,910,317
未収補助金	5,375,000	1,644,000	3,731,000
立替金	313,903	235,590	78,313
前払金	433,500	402,500	31,000
前払費用	674,247	541,653	132,594
固定資産	852,031,845	883,190,478	△ 31,158,633
基本財産	709,000,102	740,033,739	△ 31,033,637
土地	167,984,000	167,984,000	0
建物	541,016,102	572,049,739	△ 31,033,637
その他の固定資産	143,031,743	143,156,739	△ 124,996
構築物	9,198,228	8,199,378	998,850
車輌運搬具	1,048,244	1,598,584	△ 550,340
器具及び備品	8,383,558	9,368,283	△ 984,725
無形リース資産	8,646,000	0	8,646,000
退職給付引当資産	28,480,520	27,007,730	1,472,790
長期預り金積立資産	1,680,000	1,440,000	240,000
人件費積立資産	62,000,000	72,000,000	△ 10,000,000
施設整備等積立資産	22,400,000	22,400,000	0
差入保証金	114,000	114,000	0
長期前払費用	1,081,193	1,028,764	52,429
資産の部合計	1,429,412,806	1,427,130,743	2,282,063

負債の部	当年度末	前年度末	増減
流動負債	87,013,325	73,809,758	13,203,567
事業未払金	19,207,777	16,540,738	2,667,039
1年以内返済予定設備資金借入金	22,200,000	22,200,000	0
1年以内返済予定リース債務	1,729,200	0	1,729,200
未払費用	3,153,454	3,191,963	△ 38,509
預り金	0	104,448	△ 104,448
職員預り金	3,956,894	3,489,609	467,285
賞与引当金	36,766,000	28,283,000	8,483,000
固定負債	129,289,120	143,147,730	△ 13,858,610
設備資金借入金	92,500,000	114,700,000	△ 22,200,000
リース債務	6,628,600	0	6,628,600
退職給付引当金	28,480,520	27,007,730	1,472,790
長期預り金	1,680,000	1,440,000	240,000
負債の部合計	216,302,445	216,957,488	△ 655,043
純資産の部			
基本金	94,825,208	94,825,208	0
基本金	94,825,208	94,825,208	0
国庫補助金等特別積立金	53,496,941	54,532,901	△ 1,035,960
国庫補助金等特別積立金	53,496,941	54,532,901	△ 1,035,960
その他の積立金	84,400,000	94,400,000	△ 10,000,000
人件費積立金	62,000,000	72,000,000	△ 10,000,000
施設整備等積立金	22,400,000	22,400,000	0
次期繰越活動増減差額	980,388,212	966,415,146	13,973,066
次期繰越活動増減差額	980,388,212	966,415,146	13,973,066
（うち当期活動増減差額）	3,973,066	53,995,698	△ 50,022,632
純資産の部合計	1,213,110,361	1,210,173,255	2,937,106
負債及び純資産の部合計	1,429,412,806	1,427,130,743	2,282,063

広報「山梨ライトハウス」

第100号

おめでとうございます

元法人事務局長　標　照二

広報「山梨ライトハウス」が記念すべき節目の第一〇〇号となりました。

広報の創刊にあたっては、社会福祉法人山梨ライトハウス創立四十五周年を記念して平成十年八月に第一号が発行されました。年4回の発行ですから二十五年を経て一〇〇号というわけです。

一〇〇冊分の広報誌が綴られているファイルはずっしりとした重みを感じます。

創刊からの編集では、巻頭言には毎号三井元理事長に執筆をお願いし、各施設からは利用されている方々の生きいきとした様子、そして山梨県視覚障がい者福祉協会からは当事者の声また青い鳥奉仕団の点訳・音訳の活動など多岐にわたり情報発信し、視覚に障害を持つ方々へのご理解とご協力をお願いすることとなりました。この広報は音訳され視覚に障害を持つ方々へ届けられています。

第六十号からはカラー刷りとなりより親しみやすい広報となりました。

創刊号には、草創期の山梨ライトハウスを支えてくださった浅川安子さんの随想「私と山梨ライトハウス」から始まります。病弱だった浅川さんが盲学校の生徒のために徹夜で点訳本を製作したことなどが書かれています。山梨ライトハウスの使命としての第一歩でしょう。

ここでは紹介しきれないほどの方々から執筆していただきました。名前をお聞きになるだけでも懐かしく再度拝読したい衝動に駆られることでしょう。

手にした重みは山梨ライトハウスを支えてくださった多くの方々の重みでもあります。温故知新としての記念誌や広報の大切さを改めて実感しています。

記念すべき一〇〇号は通過点です。これからも編集委員のご活躍に期待しています。

過去の広報を懐かしみながら
執筆する標元事務局長

お知らせ

鈴木道雄記念財団より福祉車両寄贈

青い鳥成人寮では、公益財団法人鈴木道雄記念財団様より、福祉車両エブリィワゴンを寄贈していただきました。9月27日山梨スズキ販売株式会社本社にて寄贈式が行われ萩原理事長が出席し、11月22日に納車されました。寄贈をしてくださいました公益財団法人鈴木道雄記念財団様、誠にありがとうございました。利用者の通院や買い物など大切に使用していきたいと思います。

山梨スズキ販売株式会社代表取締役社長 荻原茂宏様(左)

青い鳥成人寮にキッチンカーが来ました！

利用者より「焼きたてのピザが食べたい」との要望を叶えるため、12月18日のクリスマス会にピザのキッチンカーを呼びました。昼食に焼きたてのピザを食べたみなさん大満足。お忙しいなか来てくださいました「ROCKiN' PiZZA」のRYOKO様ありがとうございました。

山梨放送様から点字カレンダーのご寄贈

令和6年11月22日、日本テレビ小鳩文化事業団製作のカレンダー「点字版」３００部が山梨放送メディアプロデュース局局長荒川様より山梨ライトハウス萩原理事長に贈られました。今回のテーマは「風景を感じる」で四季折々の景色の写真が掲載されています。

「風景を感じる」がテーマの点字カレンダー

山梨放送メディアプロデュース局 局長　荒川武広様(右)

点訳・音訳奉仕員養成講習会が修了しました

今年度の点訳奉仕員の修了者は7名、音訳奉仕員の修了者は3名でした。

これから、それぞれ練習を積み重ねて実践に入ります。皆さん今後とも、図書製作へのご協力をよろしくお願いいたします。

点訳講習修了者と講師

音訳講習修了者と講師

点訳・音訳奉仕員養成講習会受講者募集！

視覚障害者の読書の普及を図るため、書籍などを点訳・音訳していただけるボランティアを養成する講習会を開催します。

◆点訳奉仕員養成講習会
〈講習期間〉令和7年6月6日～10月24日　午後1時30分～3時30分　毎週金曜日　全20回

◆音訳奉仕員養成講習会
〈音声検査〉令和7年7月9日　※応募者に音声検査と面接を受けていただき受講者を決定します。
〈講習期間〉令和7年7月30日～12月17日　午前9時30分～11時30分　毎週水曜日　全20回

お問い合わせ先　山梨ライトハウス情報文化センター　点訳・音訳奉仕員募集係　TEL.055-222-3502

◎編集長　茂手木正人　○編集委員　柳瀬美樹、手塚美香、山下苑海、雨宮正幸、笹本稔、河田文子、河内裕子
※皆様からの情報をお待ちしております。